

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	鈴木 巴那	学年(渡航時)	4年
派遣先大学	Gent 大学		
国・地域	ベルギー		
派遣期間	2024 年 9 月 ~ 2025 年 7 月		

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Fashion and Textiles	ヨーロッパのファッションの歴史を服を作るさまざまな素材(綿、ウール、絹など)の流通の視点から読み解く授業です。絵画から地域ごとのその時代のファッショントレンドを把握し、生地を特定したり、ヨーロッパ史の重要な出来事がファッションにどのような影響を与えていたのか理解できるようになります。課外活動として、コレクションを実際に観に行くこともでき、非常に一貫性のある授業でした。
Foundation of Musical Action and Perception	音楽に合わせて人が動く時に無意識にどのような知覚を行って動作に反映しているのか、グループでデータをとって数値化してみたり、音楽の知覚についてのスタディーケースを学ぶ授業です。
Society and Current Affairs: Japan	日本を日本の外から読み解き、授業の最後に、割り当てられたグループでピクを決め、20-30 分のプレゼンテーションを行います。私たち日本人が気にしていなかった小さなことを学問的に学ぶことができ、面白い経験です。
Technology and Conservation of the Visual Arts	これまで作られてきたアート作品がどのように保存されてきたか、加えて、歴史の変遷とともにどのような材料を使い、芸術作品を作られてきたか、学ぶことができます。特に芸術史に興味がある人におすすめです。
2 学期目	
履修科目	授業内容
Art Policy and Museum Studies	美術館の運営や組織づくり、展示方法に隠されたキュレータの意図などの理解を深めたり、自分で美術館の構成や作品に配置について分析し、ビジターの近くに与える影響を考えたり、スポンサーとの展覧会との関係性を考え、エッセイを書きます。加えて、グループワークを通して、ミュージアムの組織に一員になったと仮定して、新しいプロジェクトを架空的に作り上げるワークもあり、アートの業界について興味がある人にはぴったりの授業です。
Cross-Cultural Psychology	心理学の観点から異文化比較を行います。基礎知識がない私には難しい部分もありましたが、本学にはない、ユニークな授業でした。
Global Minds	World injustice をさまざまな側面からしり、その知識を通して、グループワークを進めていく授業です。ダントツで自己主張力が磨かれる授業です。ハードな環境に身を置いて、自分の成長のために努力できる人におすすめの授業です。
Introduction to Global Economic History	物流やお金の回り方を世界史の面から読み解きます。初期の資本主義から、現在に至るまでの変遷を細かく知ることができます。
Low Countries Studies	ベネルクス三国の概要について、多面的に学ぶことができるオムニバスタイプの授業です。取得できる単位数が少ないこともあり、授業としてのウェイトも軽く、楽しみながら授業を受けることができます。授業が終わる頃には、ベネルクスについて博識になることができます。

-留学先であるゲント大学、留学生コミュニティ Erasmus Network について

ゲント大学は、世界各国からの留学生が多く、多様性あふれる大学です。留学生のためのコミュニティ、イベントも充実しており、学部からのケアやサービスをフルに活用し、コミュニティでの友達作りに力を入れれば、充実した留学生活が送れると思います。最初の 1 ヶ月は自分の生活を安定させながら、授業にも慣れない時期が続き、簡単なものではありませんでした。しかしながら、学部の留学サポート担当の方に相談したり、留学生同士、細かい情報を交換しながら、環境に慣れていったと感じています。キャンパスはゲントの市内に散在しており、授業によっては、キャンパスが遠く、休憩時間の移動では間に合わない場所もあり、授業登録の際には注意が必要です。カフェテリアにあるアメリカンチャッククッキーがとっても美味しいのでお勧めです。留学生コミュニティである Erasmus Network はさまざまなお店や格安航空会社、バス会社と提携し、割引を行っているので、市内でカフェに行く際や、旅行に行く際には十分に活用しました。

-寮生活について

2025 年 7 月時点、一年留学予定の生徒が大学の寮を申し込む際、ゲントから電車で 30 分(大学キャンパスから 1 時間)の距離にある Brugge という街の寮に住むという選択肢しか用意されていません。そのほか、不動産を自分で探すのも良いとは思いますが、個人的には大学の寮をお勧めします。Brugge は、中世の街並みが綺麗に残り、13-14 世紀にヨーロッパの経済の中心となった場所でもあります。大学のあるゲントとのコネクションも電車一本ですのでアクセスも悪くありません。Best option とは言えませんが、2 つの街を一年を通して味わい尽くせたので、良い経験になりました。寮はキッチンで 18 人でシェアし、トイレとシャワーが個人の部屋にそれぞれついています。フロアの治安の良さにもよりますが、自分のキッチン用品を用意したり、冷蔵の必要のない食べ物は自分の部屋に保管しておくのが安全策だと思います。入居時点でものが壊れかけていた場合、すぐに報告し、新しいものに変えてもらうよう強く主張してください。

-留学を通しての自分の成長

一般的な適応能力、理不尽な状況を受け入れる寛容さ、状況を変えるために自分の意見を主張する力、恐れずにまずはやってみる力、人を巻き込む力がついたと思います。

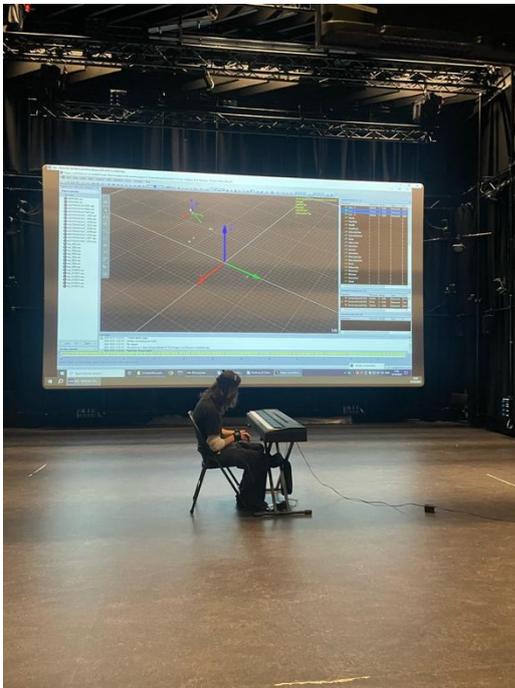
1 年の留学体験はほとんど全てが新しいものに溢れていました。スーパーの食材から、接客の仕方、テラスや地べた、芝生に座って友達と時間を過ごす文化、グループワークでのメンバーの積極性、授業中に先生に迷わず意見を投げかける生徒の姿勢、人々の働きかたなど、日本での私の経験とは全く異なるもので、価値観が大きく広がり、自分のもつ物差しの種類が増えたと思います。小さな違和感を大切にして、自分がどう思うか、常に内省することに努めたおかげで、この 1 年間を通して、自分と外の境界線がよりはっきりしたと感じています。もちろん、楽しいことや嬉しいことばかりではありませんでした。ベルギーの冬は、暗く、曇りが続き、まるで天井があるかのような天気で、息苦しく、普段陽気な私でも太陽光不足とあまりの天気の悪さで気持ちが不安定になることが何度もありました。友達も同じような状況であったことからお互いに支え合い、冬を乗り越えました。

興味があった芸術に関わる学問を留学をとおして学ぶことができたのも、非常に良い経験でした。3 年生後期が終わった時点で、十分な単位があったゆえに、単位互換を念頭に授業を選ぶのではなく、自分の興味本位に沿って、コースを選ぶことができました。日本ではアートに関わる学問は芸術大学などの教育機関に所属することが一般的な中で、人文学部の中でこのような学びを深めることができ、自分の人生の選択肢に大きな影響を与えてくれました。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



Ghentの街並み。写真のように、雲が少なく、夕日がこんなに綺麗に建物を照らす日はそう多くありません。運河の周りはバーやレストランが並び、みなさん、天気の良い日は太陽光をとことん浴びています。



←Foundation of Musical Action and Perceptionの授業にて、悲壮的なメロディと歓喜的なメロディを弾き比べ、演奏者の体の動き方を比較するデータ採取の実験



↑1学期が終わり、みんなで4カ国周遊電車旅を計画し、8日間の旅に出ました。写真はブダペストにて。



寮のコミュニティで行った International Dinner にて、14カ国の料理が食卓に並びました。



住んでいた Brugge の景色。春は花が咲き、秋は紅葉と、街の色が移り変わる綺麗な街です。